

# コウエグ語の試験調査報告\*

乾 秀行

(山口大学)

inui@yamaguchi-u.ac.jp

## 0 はじめに

本稿は、エチオピア連邦民主共和国の南部で話されている、ナイル・サハラ系の東部スーダン語群 (East Sudanic) の中のスルマ (surma) 諸語に属する少数民族言語コウエグ (Kowegu) 語の初期調査の結果を報告するものである<sup>1</sup>。

コウエグ語は、インフォーマントのシンデ氏の話によると、ニャンガトム (Nyngatom) 州の中心地から北に約 42 キロ離れた 4 つの村で話されている。コウエグの行政管理局のあるクチュル (kuchuru) 村に約 400 人、それ以外にチャラカ (chalaka) 村に 42 人、デーラ (deera) 村に 48 人、そしてインフォーマントの出身村であるガルギダ (galgida) 村に 56 人、都合あわせて約 550 人の話者がいる。インフォーマントが暮らすコウエグの村では日常的にコウエグ語で会話がされ、近隣の有力言語であるニャンガトム語やムルシ語に囲まれながら、現在も生き続けている少数民族言語である。若年層ではコウエグ語以外にニャンガトム語や学校教育現場で用いられるアムハラ語を話すようになっているのに対して、世代が上に行くに従ってコウエグ語のみを話す単一言語話者が多い。

一方コウエグ語とは対照的に、この地域にあるもう一つの少数民族言語ムルレ (Murle) 語<sup>2</sup>は、ニャンガトムの行政管理局のルカティス氏の話によれば、ニヤ

---

\*本稿のデータは、2011 年 2 月にエチオピア連邦民主共和国内のニャンガトム (Nyngatom) 州のコウエグ (Kowegu) 語地域のガルギダ (galgida) 村出身のシンデ (Sinde) 氏 (調査当時 18 歳) をインフォーマントに現地調査したものである。インフォーマントのシンデ氏にはここに感謝の意を表したい。なお本稿は、平成 16~22 年度科学研究費基盤研究 (B) 「オモ・クシ系少数民族言語の調査研究及び地理情報システムを用いたデータベース構築」代表乾秀行 (山口大学) (課題番号 16401008, 19401023) 及び平成 22~25 年度科学研究費基盤研究 (B) 「変容するエチオピア諸言語の静態と動態に関する総合的研究, ならびにデータベース構築」代表柘植洋一 (金沢大学) (課題番号 22401046) による研究成果の一部である。

<sup>1</sup>Bender(1976) 参照。

<sup>2</sup>Ethnologue16 版によれば、スーダンに約 6 万人の話し手があり、VSO で後置詞を持つとされる言語類型論的には興味深い言語である。

ンガトムの中心地から北へ約8キロ離れたところに村があり、そこには約200人のムルレ人が暮らしている。しかしながらその中でムルレ語を話せるのは目の不自由なお年寄り一人を残すのみとなり、他の住民は皆ニャンガトム語への言語交替が起こっているそうである。

## 1 ナイル・サハラ

「ナイル・サハラ」とは、北のアフロ・アジア語族と南のニジェル・コンゴ語族に挟まれた、アフリカ中央部に位置する言語群で、その主要な言語群は、中央スーダン語群、東スーダン語群、サハラ語群で、それ以外にも孤立した言語グループがいくつも存在する。その言語的性格に関しても、多種多様な様相を示しているとされ、語族の成立を含めて、系統関係の解明には、言語の基礎データの蓄積が不可欠である。しかしながら、ナイル・サハラに属する言語の研究がアフリカ諸語の中で最も遅れた分野ということもあり、今後さらなる調査が進むことが期待されている。ナイル・サハラ系の言語はエチオピアの西南部にも分布域を広げている。

本研究は、エチオピアで話されているナイロ・サハラ系の言語記述を、エチオピア人研究者と連携しながら包括的に行うことを最終目的にしている。エチオピアで話されているナイロ・サハラ系の言語は、調査地域としては大きく分けてガンベラ周辺とジンカ周辺の2つになる。まずガンベラ周辺で話されているベルタ語及びコムズ諸語の人口を Ethnologue16 版に基づいて多い順に並べると、表1のようになる。

表1: ベルタ・コムズ

言語名	系統	Ethiopia	Sudan(S)	総人口
ベルタ語 (Berta)	ベルタ	125,000	0	125,000
グムズ語 (Gumuz)	コムズ	120,000	(S)40,000	160,000
ウドゥク語 (Uduk)	コムズ	20,000	(S)?	20,000
クワマ語 (Kwama)	コムズ	15,000	0	15,000
コモ語 (Komo)	コムズ	1500	(S)10,000	11,500
オプーオ語 (Opuu)	コムズ	1,000	(S)?	1,000

一方、ジンカ周辺で話されているナイロート諸語及びスルマ諸語の人口はやはり多い順に並べると、表2のようになる。

これまでオモ系言語をジンカ周辺で調査してきた経緯から、ナイル・サハラ系言語に関しても、ジンカ周辺で話されているナイロート諸語及びスルマ諸語

表 2: ナイロート・スルマ

言語名	系統	Ethiopia	Sudan(S)/Kenia(K)	総人口
ヌエル語 (Nuer)	ナイロート	64,900	(S)740,000	804,900
トゥルカナ語 (Turkana)	ナイロート	25,200	(K)451,000	476,200
アヌアク語 (Anuak)	ナイロート	45,600	0	45,600
ニャンガトム語 (Nyangatom)	ナイロート	14,200	0	14,200
メエン語 (Me'en)	スルマ	80,000	0	80,000
ムルレ語 (Murle)	スルマ	200	(S)60,000	60,200
スリ語 (Suri)	スルマ	19,600	(S)1,000	20,600
マジャン語 (Majang)	スルマ	15,300	0	15,300
カチポ・バレシ語 (Kacipo-Balesi)	スルマ	4,120	(S)10,000	14,120
ムルシ語 (Mursi)	スルマ	3,280	0	3,280
コウェグ語 (Kwegu)	スルマ	450	0	450

から調査を開始し、またその中でも話者数の少ない少数民族言語から着手することにした。

## 2 調査日程および方法

今回の調査は2011年2月21日から24日の4日間ジンカ (Jinka) に滞在し、ジンカから車で行くことが可能なナイロサハラ系の少数民族言語を対象に、インフォーマントを見つけることを最大の目的に行われた。

まずジンカにある南オモ州の行政管理局に行き、長であるアレム氏からナイロサハラ系の言語調査であることを伝え、ナイロサハラ系少数民族言語が話されている地域まで車で行く方法について情報収集した。その結果、ニャンガトム語、ムルレ語、コウェグ語の話されているニャンガトム州に行くことを決定し、調査許可のためのレターを受け取った。

22日早朝6時に4WDでジンカを出発し、トゥルミの手前をニャンガトム地域へ進み、約5時間かけてニャンガトムの行政管理局があるオモ川の対岸まで辿り着いた。そこから先はオモ川に橋がないため、対岸に車を止めたままモーターエンジン付きの渡し船で移動し、前述のルカティス氏に調査目的を伝えた。ところが当地にはレンタルできる車がなく、ムルレ語やコウェグ語が話されて

いる村まで行くことが容易でないことが判明した<sup>3</sup>。

今回は日程的な制約があり、また泊まるための十分な準備をして来なかったこともあり、実際に村まで行って調査をすることは適切ではないと判断し、ニャンガトムで少数民族言語話者のインフォーマントを探すことにしたところ、コウエグ語話者であるスィンデ氏を見つけることに成功した。研究目的を説明し、ジンカに戻って2日間調査することの快諾を得て、再び車を走らせてジンカに戻った。

調査は23日及び24日の2日間、午前と午後のそれぞれ3時間の合計12時間行った。「アジア・アフリカ言語調査票(下)」のA語彙及びB語彙の中にある名詞(274語)の語彙調査<sup>4</sup>と若干の文法項目の調査を行った。

スィンデ氏は母語であるコウエグ語の他に、ニャンガトム語及びアムハラ語が話せる。質問はアムハラ語で行い、それを書き取る形で行われた。しかしながら、今回は調査期間が短かったため、音声記述や音素解釈について不完全な部分もあると思われる。また形態素分析を行っていないので、語をどういう形態で代表させるのが適切であるかも検討していない。したがって本稿のデータは、初期調査として今後の調査研究の出発点として位置づけることにしたい。

### 3 先行研究

コエグ語の先行研究としては、Hieda(1990, 1991, 1992, 1998)等があり、詳細な語彙調査や文法調査が既に行われている。その調査は、クチュル村の高齢者を対象に実施されている。

一方、今回のインフォーマントであるスィンデ氏は18歳と年齢が若く発音が明瞭である。またクチュル村とは異なるガルギダ村出身である。彼の発音では、コエグ[koegu]ではなく、コウエグ[kowegu]である。これまでに村の代表として、エチオピアの少数民族の会議で首都アジス・アベバやアワサに行った経験があり、民族のアイデンティティとしての“コウエグ”を強く意識しているのかもしれない。村による方言差や年齢差があるのか、また若年層がどの程度コウエグ語を保持しているのか、現時点では不明であるので、今回は初期調査という

<sup>3</sup>最初は高台にあるカロ(Karo)の村を訪れ、そこから対岸まで手こぎボートで行くことが可能であるとの情報を得たが、ニャンガトムの行政管理局に先に顔を出す必要があり、また渡った後の村までの距離情報が十分得られなかったため、今回は断念した。

<sup>4</sup>『言語調査票2000年版』としてウェブ上に公開されている東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所の峰岸真琴氏作成のexcelファイルを利用した。峰岸(2000)参照。この調査票は、周知のとおり、2,000語を重要度の違いからA語彙200語、B語彙300語、C語彙500語、D語彙1,000語の4区分にしておき、通し番号の若い順から、AおよびB語彙(1-500)、C語彙(501-1000)、D語彙(1001-2000)が収録されている。

こともあり、先行研究とは比較することはしないでおく。

#### 4 音声・音韻

274 語の調査語彙に現れた音声から、コウェグ語には以下のような音素があるのではないかと推測する。まず母音は、/i/, /e/, /a/, /o/, /u/ の 5 母音で、その長母音も弁別的である。さらに /ie/, /ia/, /ei/, /ai/, /ae/, /au/, /ua/, /uo/, /ou/ という母音隣接が比較的よく起こり、これを二重母音として一つの音素と解釈するかは今後の課題である。

母音の解釈と関連して、アクセントは高低アクセントである。高低、低高、平板の 3 種類のタイプが存在し、異なるアクセントタイプで発音すると許容されない。アクセントによる弁別性があるかどうかは今後の調査で明らかにしたい。まとめると表 3 のようになる。

表 3: kowegu 語の母音体系

i		u	ii		uu
	e	o		ee	oo
		a			aa

一方子音は、閉鎖音から順にみていくことにする。無声音は /p, t, ts, tʃ, k, ʔ/ で、/u/ と /ts/ が両方現れるけれども、/ts/ が現れるのはわずか 2 例しかない<sup>5</sup>。有声音は /b, d, g/ で、/ts/ に対応する /dʒ/ は今のところ出てきていない。放出音は /tʃ, kʰ/ のみで、調音位置の前にギャップが出てくる。逆に入破音は /β, dʰ/ で、調音位置の前の位置のみ出てきて、かつてヤコブソンが指摘したように、放出音と入破音の間に調音位置における対立がなく、きれいな相補分布が見られる。

摩擦音は、無声音が /s, ʃ, x, h/ で、このうち /x/ は [x~χ] の幅がある。語によっては /k/ と交替するので、軟口蓋の /x/ と解釈した。なお今回は音声実現形を重視して /h/ と /x/ を異なる音素として提示したが、/h/ と /k/ が交替する場合や /h/ が落ちてゼロになる場合もあり、音環境をもう少し詳細に調べて見る必要がある。有声音は /z, ʒ, β/ で、/ʒ/ は記述時には摩擦音と解釈したが、体系を見ると破擦音の位置にもギャップがあり、再度確認する必要がある。/β/ は 1 語にしか現れないけれども、調音位置としては軟口蓋より後ろであったため口蓋垂音と解釈した。

鼻音は、/m, n, ŋ, ŋ/ と揃っており、豊かである。特に /ŋ/ は、いわゆる軟口蓋音閉鎖音が後ろに来た場合に同化して現れるだけでなく、語末さらには語中にも現れる機能負担量の高い音素である。

<sup>5</sup> そのうち 1 例は借用語である。

流音は/r, l/で、/r/はふるえ音で、/l/は側面音というよりはじき音に近く、調音した後に歯茎の位置から素早く離す必要がある。半母音は/j, w/の2つである。なお、重子音は弁別的である。以上まとめると表4のようになる。

表 4: kowegu の子音体系

無声閉鎖音	p	t	ts	tʃ	k	ʔ
有声閉鎖音	b	d			g	
放出音				tʃ'	k'	
入破音	ɸ	d				
無声摩擦音		s		ʃ	x	h
有声摩擦音		z		ʒ		ʁ
鼻音	m	n		ɲ	ŋ	
流音		r/l				
半母音	w			j		

## 5 文法

基本語順、人称標示、動詞活用、受動態についてここでは取り上げることにする。

### 5.1 基本語順

節語順は VSO が基本であると思われる。しかし比較的自由なようで、特に SVO はよく観察される。おそらく情報構造に応じて語順を変えていると思われる。それ以外の語順の主要特徴は、属格名詞句と名詞の順が NG (名詞+属格名詞句)、形容詞と名詞の順が NA (名詞+形容詞)、接置詞の現れ方が PR (前置詞) である。いわゆる首尾一貫した VSO 型言語の特徴を有していると言える。なお、名詞の格標示が出てこないのが、タイプとしては中立型と考えられる。以下の例を確認されたい。

節語順 VSO が無標で、SVO になると S の要素がトピック化されると解釈した。

(1) inda<sup>2</sup>a kiani biwa.

咬んだ犬 猫

「犬が猫を咬んだ。」(VSO)

(2) kiani inda<sup>?</sup>a biwa.

犬 咬んだ猫

「犬は猫を咬んだ。」(SVO)

**属格名詞句と名詞の順** 属格標示は {ka} で、軟口蓋閉鎖音が摩擦化した {xa} も観察される。

(3) tog ka kubar

口 の鳥

「くちばし」

(4) got ka bai

雨 の石

「雹」

(5) gongo xa moogu

殻 の卵

「卵の殻」

(6) manki xa ziino

蚊 のマラリア

「マラリア蚊」

**形容詞と名詞の順** 形容詞は今回殆ど収録していないけれども、少ない例から判断するとNAとなる。

(7) pugu fuk<sup>?</sup>a

風 柔らかい

「そよ風」

(8) aruj k'ula

肉 新しい

「生肉」

**接置詞** 前置詞がいくつか収集できた。名詞に格標示が現れないこともあり、前置詞の語としての独立性は高いと考えられる。

(9) oha karam

から 椅子

「椅子から」

(10) ke rooro kiem

に時 1

「1時に」

(11) ke ur neeni/guwaju

に人私の/私たちの

「家族に」

(12) doojok mua

上 水

「水の上」

## 5.2 人称標示

人称標示は、独立人称代名詞と動詞の人称接辞がある。独立人称代名詞は、3人称単数だけでなく2人称単数にも男女の区別がある。一方人称接辞は、1人称・2人称（単複の区別なし）のみで3人称はゼロ標示である。なお、人称標示は動作主を表す主格接辞のみの単項型である。その場合、独立人称代名詞は文の必須の要素ではなくなり、省略が可能となる<sup>6</sup>。一方、3人称代名詞男性は、指示代名詞の近称「これ」と同じで、指示代名詞起源であることがわかる。

表 5: 独立人称代名詞

	sg.	pl.
1	aan	uwou
2	iin(m.) / ijaŋ(f.)	ijo
3	xin(m.) / inki(f.)	gitae

なお、人称代名詞の所有形は独立人称代名詞とは異なる形をとる。例として「～に金がない。」という表現には、人称による語形変化がなく、所有形が使われる。その場合、たとえば「私の」にあたる所有形 {naani} の前に {o-} がつく。以下例を参照されたい。

(13) gaan onaani bre aneken.

今 私に 金 ない

「今私に金がない。」

<sup>6</sup>参考比較のために、近隣の有力言語でナイロート諸語に属するニャンガトム語の1人称単数・2人称単数、1人称複数の人称代名詞を挙げておくと、1人称単数が ajonj、2人称単数男性が ijonj、2人称単数女性が ijonaga、1人称複数が swa となる。



(14) gaan onuuni bre aneken.

今 あなたに金 ない

「今あなたに金がない。」

(15) gaan oneeni bre aneken.

今 彼に金 ない

「今彼に金がない。」

### 5.3 動詞活用

動詞活用は、いくつかの動詞を試験的に調べてみたところ、単数と複数で語幹が全く異なるものもあり<sup>7</sup>、まだ全体を把握するには至っていない。ここでは動詞活用の一例を示すために比較的規則的な活用をすると思われる「食べる {aam}」と「飲む {mat}」の例を表6および表7に挙げておく。人称接辞に関しては、1人称接頭辞が {ha-}<sup>8</sup>、2人称接頭辞が {je-} である。3人称には特別な接辞は付かない。また数接辞は、単数接尾辞が {-i} で複数接尾辞が {-a} である。テンス・アスペクトの接辞は、非過去あるいは未完了接尾辞が {-ba}、過去あるいは完了接尾辞が {-ja} である。それ以外のテンス・アスペクト接辞は現時点で報告できる段階ではない。最後に女性接尾辞は {-e} と解釈できる。語幹と接辞の配列を表すと以下ようになる。

#### 主格接辞—語幹—数接辞—テンス・アスペクト接辞—女性接辞

表6: 「～は、インジェラを食べる。」 / 「～は、インジェラを食べた。」

aan(1sg.)	ha <sup>?</sup> aamba	anzera.	ha <sup>?</sup> aamija	anzera.
iin(2sg.m.)	je <sup>?</sup> aamba	anzera.	je <sup>?</sup> aamija	anzera.
iqaq(2sg.f.)	je <sup>?</sup> aambae.	anzera	je <sup>?</sup> aamijae	anzera.
xiq(3sg.m.)	aamba	anzera	aamija	anzera.
iqki(3sg.f.)	aambae	anzera.	aamijae	anzera.
uwou(1pl.)	ha <sup>?</sup> aamaba	anzera.	ha <sup>?</sup> aamaja	anzera.
ijo(2pl.)	je <sup>?</sup> aamaba	anzera.	je <sup>?</sup> aamaja	anzera.
gitae(3pl.)	aamaba	anzera.	aamaja	anzera.

<sup>7</sup>たとえば「来る」の語幹は、単数で {kui}、複数で {paj} になる。

<sup>8</sup>語幹が母音で始まる場合は、間に声門音ʔが入る。

表7: 「～は、水を飲む。」 / 「～は、水を飲んだ。」

aan(1sg.)	hamattiba	mua.	hamatija	mua.
iin(2sg.m.)	jemattiba	mua.	jematija	mua.
ijaŋ(2sg.f.)	jemattibae.	mua.	jematijae	mua.
xij(3sg.m.)	mattiba	mua.	matija	mua.
ijki(3sg.f.)	mattibae	mua.	matijae	mua.
uwou(1pl.)	hamataba	mua.	hamataja	mua.
ijo(2pl.)	jemataba	mua.	jemataja	mua.
gitae(3pl.)	mataba	mua.	mataja	mua.

#### 5.4 受動態

受身接辞は {-en} で、動作主は前置詞 oha によって表される。なお、受動文の場合 SVO の語順が好まれるようである。

(16) kiani inda<sup>?</sup>a biwa.

犬 咬んだ猫

「犬が猫を咬んだ。」

(17) biwa indena<sup>?</sup>a oha kiani.

猫 咬んだ よって猫

「猫は犬に咬まれた。」

(18) jubun kotia<sup>?</sup>a Sinda.

父 叱った スインデ

「父はスインデを叱った。」

(19) Sinda kotiena<sup>?</sup>a oha jubun.

スインデ 叱られた よって父

「スインデは父に叱られた。」

## 6 語彙リスト

最後に語彙リストを挙げておく。Noは「アジア・アフリカ言語調査票（下）」のA語彙及びB語彙の番号である。コウエグ語の音素表記は音声を再現しやすいようにIPAに準拠した形で挙げている。コウエグ語で複数の語例が挙げられているもののうち、「/」で表したのは音交替可能な例である。なお、（ ）で括った語は、アムハラ語からの借用語でコウエグ語にはない。一部の語に関して、必要に応じて脚注を加えているので参照されたい。

No	日本語	English	Kowegu
1	頭	head	ʃubo
2	髪、髪の毛	hair	tʃ'iraaf
3	額	forehead	maari
4	眉、眉毛	eyebrow	duom ka karbo
5	目	eye	karbo
6	涙	tear	tʃ'irao
7	耳	ear	nabu
8	鼻	nose	zuruŋ
9	口	mouth	tog
10	唇	lip	podoro
11	舌	tongue	kaat
12	唾	spit	manik'e
13	歯	tooth /teeth	nigi
14	顎	chin	mootʃa
15	頬	cheek	banga
16	髭	moustache	nukuts
17	顔	face	woti
18	首	neck	bolu
19	喉	throat	k'oruŋ
20	肩	shoulder	kapana
21	背中	back	kutkut
22	腰	waist	illiko
23	尻	buttock	tada
24	胸	chest	k'ak'om
25	乳、乳房	breast	ute
26	腹	belly	kijaŋ
27	臍	navel	gungus

No	日本語	English	Kowegu
28	腕	arm	buwa
29	肘	elbow	kofolgu
30	手	hand	buwa
31	指	finger	kiem
32	爪 [人、動物の]	nail /fingernail /claw	fuk'am
33	足	leg /foot	duur
34	膝	knee	kuwam
35	肝臓	liver	noxo
36	心臓	heart	jan
37	腸	guts	antit ka kijaŋ
38	皮膚、皮、肌	skin	kati
39	汗	sweat /perspiration	usuma
40	垢	filth /grime /dirt	daxa/daka
41	膿	pus	muzugu
42	毛 [人間の体毛]	hair	tʃ'iraaf
43	脂、脂肪	fat /grease	ʃaga
44	血	blood	niabu
45	骨	bone	gitʃ'i
46	肉	flesh	aruŋ k'ula
47	体、肉体	body	ruwa
48	病気	diseases /illness /sickness	burk'i
49	傷、怪我	wound	gie
50	薬	medicine	deeʃa
51	米	rice	(ruz)
52	粉	powder /flour	ʃil
53	塩	salt	sook'o
54	油	oil	waʔati
55	酒	liquor /wine	matinen
56	タバコ	tobacco	dambo
57	味	taste /flavor	ʃaamalk'
58	匂い、香り	smell /scent /odour	maaziba/gaamiba <sup>9</sup>
59	食べ物、食物	food	daʔano
60	肉	meat	aruŋ

<sup>9</sup>“maaziba”が「くさい臭い」、「gaamiba」が「いい匂い」の意。

No	日本語	English	Kowegu
61	卵	egg	moogu
62	鶏	/fowls	baatja
63	鳥	bird	kubar
64	翼、羽	wing	kooli
65	羽毛	feather /plume	sile
66	巢	nest	to <sup>2</sup> o ka kubar
67	嘴	beak /bill	tog ka kubar
68	角	horn	jei
69	牛	beef /cow /bull	bi <sup>10</sup>
70	小刀、ナイフ	knife /penknife	ebbel
71	刀	sword	(gorade)
72	刃	blade /edge	napanga
73	棒	pole /bar /stick	seega
74	弓	bow	taaruj
75	矢	arrow	Jorgu
76	槍	lance /spear	par
77	糸	thread	kire
78	針	needle	(marfe)
79	着物、衣服	clothes /clothing	apala
80	紙	paper	(warak'at)
81	物	thing	oke
82	蛇	snake	tfaatj
83	虫	worm /insect	gifo
84	蠅	fly	tj'utj'unte
85	蚊	mosquito	manki
86	蚤	flea	tubo
87	虱	louse	k'asa
88	蟻	ant	opo, gulaaja <sup>11</sup>
89	魚	fish	arte
90	貝	shellfish	koltja
91	動物	animal	dabi
92	猟	hunting	adma
93	網	net	pepuutei

<sup>10</sup>雄牛 (ox) は “bi zum”、雌牛 (cow) は、“bi anj”である。

<sup>11</sup>“opo”は「大きな蟻」、 “gulaaja”は「小さな蟻」の違いがある。

No	日本語	English	Kowegu
94	犬	dog	kieni
95	綱	rope	kaja taf <sup>i</sup> <sup>12</sup>
96	紐	string	kaja diini <sup>13</sup>
97	羊	sheep	madir
98	馬	horse	parda
99	豚	pig	ʃopu
100	尻尾、尾	tail	kuur
101	動物の毛	fur /wool	ʃ'iraaʃ
102	毛皮	fur	dapa
103	袋	sack /bag	laama
104	鍋	pan /pot	zu ka akinen <sup>14</sup>
105	釜	kettle	(mankor korja)
106	瓶	jar	(barmel)
107	壺	jar /pot	zu
108	屋根	roof	ʃaala
109	壁	wall	k'otʃ'ur
110	窓	window	pulta
111	扉、ドア	door	apuk
112	家、住居	house /home	to <sup>o</sup>
113	車	vehicle /car	kanke
114	船、船舶	vessel /ship	gagi
115	井戸	well	ziiwon
116	仕事	business /job /work /task	waadima
117	金、金銭	money	antiti
117.1	お釣り	change (N)	(mals)
118	木	tree	ʃaari
119	幹	stem /trunk	ʃ'aatʃ'i
120	枝	branch	anti
121	草	grass	ʃuʃ'u
122	茎	stalk	wolʃ'a
123	根	root	kinei
124	葉	leaf	k'ak'ten

<sup>12</sup> 「太い紐」の意。

<sup>13</sup> 「細い紐」の意。

<sup>14</sup> 「料理の鍋」の意。

No	日本語	English	Kowegu
125	花	flower /blossom	uufimi
126	実	fruit /nut	karbu
127	種子、種	seed	benta
128	樹皮	bark	gongo
128.1	殻	cover	gongo xa moogu <sup>15</sup>
129	水田	rice-field	haamu
130	林	grove /copse /woods	duui
131	森	forest	duui
132	道	way /road	gowar
133	穴	hole /pit	oolo
134	橋	bridge	(dildi)
135	川	river	dara
136	山	mountain	gaag
137	野、野原	field	fal
138	平野、平原	plain	fal
139	池	pond	buulu
140	湖	lake	ɲapas
141	海	sea	(bahir)
142	島	island	kutum
143	水	water	mua
144	氷	ice	(barado)
145	石	stone	bai
146	土	earth	daali
147	砂	sand	gailimi/ietf'i
148	埃	dust	duudi
149	煙	smoke	tf'ubbi
150	灰	ash	buolu
151	火	fire	guu
152	風	wind	pugu
152.1	涼風	breeze	pugu fuk'a
153	雲	cloud	luup
154	霧	fog	tf'iiť'o
155	雨	rain	got

<sup>15</sup> 「卵の殻」の意。

No	日本語	English	Kowegu
156	雪	snow	got ka bai <sup>16</sup>
157	空	sky	poola
158	虹	rainbow	ziilli
159	太陽	sun	juuf
160	月	moon	tigej
161	影	shadow	muolu
162	星	star	eezin
163	日	day	(k'an)
164	毎日	daily /everyday	juutf'ol
165	週	week	(saamint)
166	月	month	tigej
167	年、年	year	bon
168	朝	morning	daam
169	昼間	afternoon	makek'ai
170	夕暮れ、夕方	evening	mikir
171	晩、夜	night	mikir tʃ'ak'an
172	昨日	yesterday	giagon
173	明日	tomorrow	daamu
174	今日	today	juun
175	今	now	gaan
176	何時	when	aamin
177	何時 [時間]	what time is it?	rooro gae rae?
178	時間、時	hour /time	rooro
179	一	one	kiem
180	二	two	daa
181	三	three	zien
182	四	four	ahur
183	五	five	tʃon
184	六	six	lah <sup>17</sup>
185	七	seven	tsofa
186	八	eight	loŋkai
187	九	nine	sel
188	十	ten	tabi

<sup>16</sup> 「石の雨」から「雹」の意。雪は降らない。

<sup>17</sup> 6以上は、クシ系からの借用語である。



No	日本語	English	Kowegu
189	二十	twenty	lama tam
190	百	hundred	di6
191	いくら	how much	gae ʋae
192	いくつ	how many	gae ʋae
193	半分	half	ʒoogi
194	全部	altogether /all /whole	paila
195	若干	some	kiem kiem
196	数	number	kommen
197	年、年齢	age	bon
198	回 [第一回、一回]	(first) time	ʒaalen
199	夫	husband	uma
200	妻	wife	xaʔaŋ
201	結婚	marriage	ienifinen
202	父	father	ʒubun
203	母	mother	ʒuun
204	祖父	grandfather	kaakine
205	祖母	grandmother	apa
206	息子	son	hua ka ʒumu
207	娘	daughter	hua ka xaʔaŋ
208	子 [人間の子]	child	xanta
209	子 [動物の仔]	young	ooto
210	孫	grandchild	biiza
211	兄	elder brother	ijimo
212	姉	elder sister	mitʃa
213	弟	younger brother	kana
214	妹	younger sister	kana
215	兄弟	brother	tʃʹine kegaŋ <sup>18</sup>
216	姉妹	sister	tʃʹin kegaŋ
217	家族	family	ur guwaju <sup>19</sup>
218	友達	friend /mate	arija
219	喧嘩	quarrel	luk
220	力	force /strength /power /might	kanta
221	啞	dumb	toganeken

<sup>18</sup>“kegaŋ”は複数を表す。

<sup>19</sup>「私たちの人」の意。

No	日本語	English	Kowegu
222	聾	deaf	liḃo
223	盲	blind	karbo mar <sup>2</sup> anen
224	男	male	zumu
225	女	female	xa <sup>2</sup> aŋ
226	人	person /man /one	uru
227	私	I (1st per. sg)	aan
228	あなた	you (2nd per. sg)	iin/iŋaŋ
229	彼	he (3rd per. sg.)	xiŋ
230	彼女	she (3rd per. sg.)	iŋki
231	私達	we (1st per. dual incl)	uwou
232	あなた達	you (2nd per. pl.)	ijo
232	あなた達	you (2nd per. dual)	/
233	彼等 (複)	they (3rd per. pl.)	gitae
234	彼女等 (複)	they (3rd per. pl.)	/
235	自分	oneself /self	neeni
236	他の	else /other	kauru
237	誰	who	hannin
238	姓名の名	name /first name	roŋ
239	名前、名称	name	roŋ
240	字、文字	letter	(dabdabbe)
241	声	voice	aafawa
242	音	sound	awaija
242.1	音	sound	awaija
243	言葉	language /speech	togguuju
244	心	mind /heart	k <sup>2</sup> aabiba
245	神	God	barijo
246	祭り	feast /festival	tontoro
247	村	village	forok
248	町	town	(katama)
249	これ、近称	this (one)	xiŋ
250	それ、三人称単数	it	iŋkaam
251	あれ	that (one)	iŋkaam
252	どれ、不定称	which one	na
253	何	what	oo

No	日本語	English	Kowegu
254	何故	why	nanda hao
255	これら	these (ones)	gitaŋki
256	どう、どのように	how	ha <sup>?</sup> ien/ke <sup>?</sup> ien
257	ここ	here	oŋ
258	そこ	there	ha <sup>?</sup> m
259	あそこ	that place /over there	okokeam
260	どこ	where /anywhere	ha <sup>?</sup> on
261	こちら、こっち	this way	ke taan
262	そちら、そっち	that way	ke bakun
263	あちら、あっち	away /that way	ke bakun
264	どちら、どっち	where	na
265	所、場所	place /location	baki
266	左	left	warkata
267	右	right	buon
268	前、前方	front	lemen
269	後ろ	back	taaxa kutkut
270	内、内部	inside /inward /interior	tuonŋ
271	外、外部	out /outside /exterior	tula <sup>?</sup> a
272	間	space	bal
273	上	up	doojok
274	下	down	xirk

### 略号 (Abbreviations)

1sg.	「1 人称单数 ('first person singular')」
1pl.	「1 人称複数 ('first person plural')」
2sg.	「2 人称单数 ('second person singular')」
2pl.	「2 人称複数 ('second person plural')」
3sg.	「3 人称单数 ('third person masculine singular')」
3pl.	「3 人称複数 ('third person plural')」
sg.	「单数 ('singular')」
pl.	「複数 ('plural')」
m.	「男性 ('masculine')」
f.	「女性 ('feminine')」

【参照文献】

- Bender, M.L. (ed.) (1976) *The Non-Semitic Languages of Ethiopia*. Michigan: African Studies Center, Michigan State University.
- Dimmendaal, G.J. and L. Marco (eds.) (1998) *Surmic Languages and Cultures*. Köln: Rüdiger Köppe.
- Hieda, O. (1990) 'Koegu, a preliminary report', *Journal of Swahili and African Studies*, 1, 97-108.
- Hieda, O. (1991) 'Koegu Vocabulary, with a Reference to Kara(African Study Monographs, Suppl. 14), 1-70. The Center for African Area Studies, Kyoto University.
- Hieda, O. (1992) 'A Grammatical Sketch of the Koegu Language', *Journal of Swahili and African Studies*, 3, 131-155.
- Hieda, O. (1998) 'A Sketch of Koegu Grammar: Towards reconstructing Proto-Southeastern Surmic'. In Dimmendaal, Gerrit J. & L. Marco (eds.): 345-373.
- Lewis, M.P. (2009) *Ethnologue: Languages of the World, Sixteenth edition*. Dallas, Tex.: SIL International. Online version: <http://www.ethnologue.com/>